

船舶事故等調査報告書

平成21年6月25日

運輸安全委員会(海事専門部会)議決

事故等番号	2008門第71号	
事故等名	貨物船愛宕丸運航阻害	
発生年月日時刻	平成20年7月27日09時00分ごろ	
発生場所	福岡県関門港若松区第4区北湊岸壁 (概位 北緯33° 55.0′ 東経130° 48.4′ )	
事故等調査の経過	調査の概要:平成20年11月7日門司・地方事故調査官が海難報告書を入手、平成21年4月1日、2日機関長及び整備業者から口述聴取 原因関係者からの意見聴取:意見なし	
事実情報	船種・船名・総トン数 貨物船 愛宕丸 198トン 船舶番号(IMO 番号) 131395 船舶所有者等 有限会社白石海運 ディーゼル1基(551kW)	
乗組員等に関する情報	機関長 五級海技士(機関)	
負傷者	なし	
損傷	主機過給機排気入口ケーシングの冷却壁に破口	
事故等の経過	本船は、機関長他3名が乗組み、福岡県関門港で鋼材を積載するため、空船で香川県坂出港を関門港向け発し、荷役待ちのため、関門港若松区第4区北湊岸壁に着岸した。 本船は、シフト準備のため、平成20年7月27日09時00分ごろ、主機のインジケータータストコックを開放してエア運転を行ったところ、同コックから水が漏出したことから、過給機のドレンコックを開放して点検したところ、冷却清水の漏出が認められた。 整備業者が点検した結果、主機過給機の損傷が判明し、応急修理して運航を続け、同年9月定期検査時に新品と交換して修理された。	
分析	気象・海象の関与 なし 乗組員等の関与 あり 船体・機関等の関与 あり 判明した事項の解析	本船は、主機の排気温度の上昇を抑える目的で、冷却清水の温度調整弁を自動から手動に切り替えて温度を約40～50℃に下げて運航していたことから、排気ガスによる低温腐食により過給機排気入口ケーシングの冷却壁に破口を生じたものと考えられる。 主機冷却清水の温度管理が適切に行われていなかった可能性があると考えられる。 なお、主機の燃料油は、A重油であった。
原因	本インシデントは、本船が主機冷却清水の温度が下げられていたため、排気ガスによる低温腐食で過給機排気入口ケーシングの冷却壁に破口を生じたことにより発生したものと考えられる。	
その他の事項	なし	